

長文化・複雑化する大学入試・高校入試・中学校入試に備え、読解力を育てよう  
—①「意味調べノート」②「スクラップブック」③「書き抜き読書ノート」を作り、  
「読解力」を育てよう—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：大学入試・高校入試・中学入試の問題文が長くなり、複雑になっています。どうしたらよいでしょうか。

A：各教科の勉強と同時に、「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に親しみ「読解力」を育てるのが一番です。

Q：入学試験の問題を読み解き、正解を導く「読解力」を身に着けるためには、どうしたらよいでしょうか。

A：(1) その第一歩は、「辞書」に慣れ親しみ、「語彙数」を少しずつでも積み重ねることです。  
(2) その第二歩は、「新聞」「読書」に親しみ、「今までに見たこともない文章や情報、様々なジャンル(分野)の文章を論理的・分析的に読み解く力」を身に着けることです。  
(3) その第三歩は、「創造性」と同時に、「思考力」とりわけ「批判的思考能力」を育てることです。

Q：「辞書」はどのように活用したらよいのですか。

A：＜意味調べノート＞のすすめ。

- (1) よく意味の分からない「語句」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書を用いて調べることをおすすめします。
- (2) 辞書で調べたことは「意味調べノート」に、必ず、「書き写す」こと。  
○英語は、「発音記号」も書き写す。
- (3) 「書き写した」語句とその意味は、「音読練習」、「書き取り練習」をし、その場で、「身に着ける(定着)」させること。
- (4) この「意味調べノート」は、折に触れ、最初のページから、「音読練習」と「書き取り練習」を行い、忘れないようにする。
- (5) 「短期記憶を長期記憶にする」「記憶の痕跡を残す」「知識を定着させる」ことを、おすすめします。
- (6) ①「1日に、10語の日本語」、「1日10語の英語」の意味調べを行う。  
②「意味調べノート」に書き写し、

③「音読練習」「書き取り練習」を繰り返し、「定着」「身に着ける」。

○「1年で3650語」、「3年で1万語」、日本語と英語の「意味調べ」を行ない、「意味調べノート」に書き写し、「音読練習」と「書き取り練習」で、確実に身に着けることをおすすめします。

○「積小為大（せきしょういだい）」、小さいことを、毎日コツコツ積み上げ、大を為す。偉大なことを成し遂げる。この、二宮尊徳の教えを大切にしましょう。

**Q：「新聞」はどのように活用したらよいのですか。**

**A：<スクラップブック>のすすめ。**

- (1)「新聞を、毎日、30分以上、第一面から、なめるように読み、自分で考える力、批判的思考能力を身に着けよう」
- (2)「気になる記事は、ハサミやカッターで切り抜き、『スクラップブック』に貼（は）り付け、自分の意見や感想を書き加えよう」
- (3)家庭や知り合いで購読している「昨日（きのう）」の新聞を、プレゼントしてもらい、1日遅れでもいいから、「新聞を、毎日、30分以上、第一面から、舐めるように第一面から読み、気になる記事を、ハサミやカッターで切り取り、ノリで『スクラップブック』に貼りつけ、自分の意見や感想を書き加える」。
- (4)新聞は社会の番犬。社会でおかしなこと、社会の問題点・課題があれば、ここがおかしいと、わんわん吠え、みんなに知らせ、どうすればよいかを考える機会を与えてくれるものです。
- (5)新聞は、日本や世界、地域の文化そのもの。過去から現在、現在から未来に伝えるべきものがあれば、綿密な取材を行い、読者に伝えるのが新聞の使命。読者は、それを、記者からしっかり受け止め、自分で考え、批判的思考能力を駆使し、なすべきことを行うことで、伝統や文化を踏まえたうえで、社会は発展する。
- (6)新聞は、現代の百科事典。現代社会に必要な様々な、最先端の情報を、手際よくまとめて、また、わかりやすく、提示してくれるもの。学校での勉強、仕事、社会的活動、充実した人生を送るうえでも欠かせないもの。小学生から、中学生・高校生・大学生・大学院生・社会人・リタイア後の方が、家庭生活・健康生活も含め、ありとあらゆる情報が満載なのが新聞。小学生から、亡くなる間際まで、生涯にわたって、役に立つのが新聞。

**Q：「読書」はどのようにしたらよいのですか。**

**A：<書き抜き読書ノート>のすすめ。**

- (1)「読書を、毎日、1時間以上行い、『作者との時空を超えた対話』を行い、思慮深さ、省察力、自分を振り返る力を身に着けよう」
- (2)そして、「気に入った文章や、語句があったら、『書き抜き読書ノート』に書き写し、折に触れて読み直し、自分のものにしよう」

(3) 大切な本は、決して処分せず、何回も、じっくり読みなおし、「作者との時空を超えた対話」を、生涯にわたって続けよう。

○自分にとり大切と思われる作者の本は、時間をかけてでもいいから、じっくり、行きつ戻りつしながら、全部読もう。

**Q：「図書館」はどのように親しんだらよいのですか。**

A：「図書館」に行こう。毎週何回か「図書館」に行こう。「図書館」を自分の居場所にしよう

(1) 小学生・中学生・高校生・大学生は、「学校図書館」に毎日行こう。

○学校図書館は、学校での学習の中心地です。

(2) 社会人だけではなく、小学生・中学生・高校生・大学生も、地域の「公共図書館」に、毎週何回か行こう。死ぬ直前まで、毎週何回か行こう。

○公共図書館は、地域文化の中心地です。

(3) 「学校図書館」「公共図書館」には、「辞書」「新聞」「読書のための本」、これらがすべてそろっています。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：(1) 「辞書・新聞・読書・図書館」にまずは親しみ、「学習習慣」、さらには「生活習慣」とすることが、「読解力」を育成します。「創造性」「思考力」、とりわけ「批判的思考能力」と「表現力」を身に着けることに役立ちます。

(2) 開倫ユネスコ協会「文芸大賞 2023」にご挑戦をお願いいたします。

－ 3月9日(木)記－